No.35

さきがけ

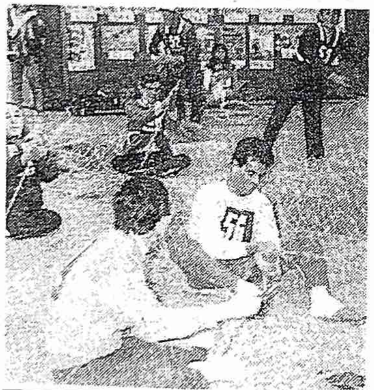
西仙北町・カエル村が縄ないピラミッド大会

100分間に縄146・5メートル 積み上げて1・17メートル

優勝は地元の佐藤さん

わらをなって縄を作り、縄ならではの味わいを見直そうという「第一回なわならではピラミッド世界大会」が十六日、仙北郡西仙北町中央公民館で開かれた。

主催は「自然にカエル」をモットーに、地場産品の掘り起こしなど地域活性化運動を行っている秋田カエル村（同町刈和野・佐々木正光代表）。今年三月に行ったスノーピラミッド大会、同八月のジャリンコピラミッド大会に続くピラミッドイベントの第三弾で、秋田大学の外国人留学生二人を含む十二人が参加した。



西仙北町で行われた「なわならではピラミッド大会」

競技は、百分間になった縄の長さと、それをトグロ状に積み上げた高さの合計ポイントで順位を競うというもの。農業、タクシー運転手、会社員などさまざまな職業の人が参加したが、ほとんどが子供のころに縄ないの経験を持つ腕に覚えのある人ばかり。額に汗を浮かべながらも見事な手さばきで縄をない、崩れないように慎重に積み上げていった。

優勝し、賞金五万円を手にしたのは一四六・五メートルをない、一・一七メートルに積み上げた同町大沢郷の農業、佐藤虎一さん（五七）。二位は南外村の佐藤寅雄さん（四七）、三位には紅一点の同町鎌田トキさん（五四）が輝いた。

61.11/17 アサヒ

縄ない大会を開催

西仙北

仙北郡西仙北町刈和野の町中央公民館で十六日、稲わらで縄を作り、長さと、とぐろ巻きにした高さを競う「なわならではピラミッド世界大会」が開かれた。自然を見直そうと同町に作られた「秋田カエル村」（佐々木正光代表）の主催。雪や河原の石での「ピラミッド大会」に続く第三弾だ。

参加したのは、五十代中心の農家、会社員、タクシー運転手ら十二人。それに秋田大学鉱山学部三年に留学中のモハメッド・アシュラスさん（スリランカ）、チョン・テホさん（マレーシア）も五分ほどの指導を受けて特別参加した。かつては冬季の農家の欠かせない作業だった縄ないも、ビニールテープなどの普及ですっかり影をひそめた。制限時間の百分で百四十六・五メートルの縄をなって優勝した同町の佐藤虎一さん（五七）＝写真＝をはじめ、「何十年ぶり」という人がほとんどだった。

61-11/17 ヨミウリ

縄の技術競った！

＝西仙北で大会＝

高さ1.5mにトグロ巻き

決められた時間でなった縄の長さと、トグロ巻きにした高さを競うユニークな催しが十六日、西仙北町中央公民館で開かれた。同町で、地域興し活動を進めている秋田カエル村が企画したイベントで、題して「なわ、ならではピラミッド世界大会」。

昔は、米俵や蓑、履物などの材料として大切にされた稲わらが、田んぼで焼き捨てられる時代になったところから、もう一度、稲わらを手に取り戻しながら現在の暮らしや将来を考えてみよう――というのが狙い。

この日の参加者は、地元周辺の中、高年者を中心に[illegible]十二人。世界大会ということもあって、秋田大学に留学中のスリランカとマレーシアからの学生二人も加わり、「初めてのことでむずかしい。でも、おもしろい」などといいながら、稲わらとの格闘を楽しんでいた。

手作りの縄で挑戦

百分間でなった縄の長さは、最高が百四十六・五メートル、トグロ巻きにした高さでは一・四八メートル。結局、高年者が力を発揮、長さで得点を稼いだ地元西仙北町の農業佐藤虎一さん（五七）が総合優勝。